

第3節 みんなが気軽に参加できる環境づくり

1 学ぶ機会の充実

(1) 人権と福祉の教育・啓発の充実を図る

■現状と課題

◆ 人権と福祉の教育・啓発の充実が必要

分野別課題調査では、「偏見がまだまだ根強く、学びの機会が必要」との指摘が多くみられました。人権と福祉の教育・啓発の充実が求められています。

取り組みの方針

- ◇ 性別や年齢、障害の有無にかかわらず、誰もが同じ地域社会の一員として尊重される社会の実現をめざし、人権や福祉に関する学びの場や機会の充実を図ります。

具体的な取り組み

自分や家族が 取り組むこと 【自助】	1. 人権問題に関心を持ち、理解を深めます。 2. 高齢者や障害のある人、子どもの課題などについて理解を深めます。 3. 高齢者や障害のある人、子どもたちとふれあう機会を大切にします。 4. 人権や福祉に関する学習会などへ積極的に参加します。
地域 みんなが 取り組むこと 【共助】	5. 地域の資源や人材を活かしながら、人権や福祉に関する学習会などを開催し、継続に努めます。 6. 幼少期からの教育が重要との観点から、子どもや親子を対象とした人権や福祉に関する教育・啓発の場の充実を図っていきます。
社会福祉協議会が 取り組むこと 【共助】	7. 地域の中での福祉教育として、講演会や疑似体験学習などを企画し、福祉に関する啓発を図ります。 8. 福祉教育を推進するため、児童や生徒を対象とした、福祉に関する学習支援の充実を図ります。
行政が 取り組むこと 【公助】	9. 人権や福祉をテーマとした講演会などを開催します。 10. 人権や福祉に関する啓発のための情報提供の充実を図ります。

(2) 生活上の福祉課題を学ぶ場の充実を図る

■現状と課題

◆ 福祉のことを学ぶ機会の充実が必要

市民ワークショップでは、「地域住民の意識向上も大切」、「認知症などについて学ぶ機会を」など、分野別課題調査では、「加齢のことや認知症のことなどを知る機会、学ぶ機会が必要」、「認知症のことについて、もっと知る機会を」、「子育てや子どもの成長、子育て支援サービスなどについて学ぶ機会の充実を」、「障害や障害のある人や障害のある子についての理解を深める機会が必要」など、福祉のことを学ぶ機会の充実を求める声が多くありました。

◆ 福祉に対する関心度が高い

市民意識調査での福祉への関心度については、「とても関心がある」が31.5%、「やや関心がある」が43.5%で、福祉に「関心がない」と回答した人の割合を大きく引き離し、市民の福祉に対する関心度の高さがうかがえます。また、福祉について理解を深めるための機会として、市民意識調査では、「福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと」が52.7%、「市民が地域の福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること」が44.4%であるのに対し、「特に必要なことはない」と回答した人はわずか3.8%で、市民の意欲の高さがうかがえます。

◆ 福祉的な観点での地域社会への関心度は低い

地域から孤立し、生活上の諸課題を抱えている人たちの存在について、市民意識調査では、「知らない」が78.6%で大変高い回答割合を占めており、福祉的な観点での地域社会への関心度は、高いとはいえない状況がうかがえます。

取り組みの方針

- ◇ 福祉サービスや虐待の問題、認知症に対する理解など、日頃知る機会が少ない身近な福祉の問題について、学ぶ場や機会の充実を図ります。

具体的な取り組み

自分や家族が 取り組むこと 【自助】	11. 福祉サービスや身近な福祉の問題などについての学ぶ機会へ積極的に参加します。
地域みんなが 取り組むこと 【共助】	12. 地域の資源や人材を活かしながら、福祉サービスや身近な福祉の問題などについて学ぶ機会を設け、継続に努めます。 13. 地域での集まりや地域活動、行事、事業所などのなかで、福祉サービスや身近な福祉の問題について学ぶ機会をつくります。

	14. 保育所や幼稚園、小中学校では、児童生徒のみならず、保護者を含め、福祉サービスや身近な福祉の問題などについて学ぶ機会を企画し、提供します。 ■ 地域での集まりや地域活動、行事のなかで、高齢者や子ども、障害のある人に対する虐待問題について学ぶ機会をつくります。（2 節 2-2.の再掲） ■ 地域での認知症サポーター養成講座開催を市へ要請し、住民に参加を呼びかけます。（2 節 2-16.の再掲）
社会福祉協議会が 取り組むこと 【共助】	■ 高齢者や子ども、障害のある人に対する虐待問題について、学ぶ機会の充実を図ります。（2 節 2-6.の再掲）
行政が 取り組むこと 【公助】	15. 市民が興味関心を持つ福祉をテーマとしたイベントや講演会、出前講座などを実施し、福祉サービスや身近な福祉の問題などについての理解を深める取り組みをすすめます。 16. 各課係で開催を予定している講演会などについて、テーマを関連付けるなど、より充実した企画となるよう努めます。 ■ 高齢者や子ども、障害のある人に対する虐待問題について、学ぶ機会の充実を図ります。（2 節 2-6.の再掲） ■ 地域や学校、市民が訪れる機会が多い事業所において、認知症サポーター養成講座の開催をすすめます。（2 節 2-20.の再掲） 17. 学ぶ機会への多くの参加者を募るため、その開催などに関する情報伝達を工夫するとともに、託児など誰もが参加しやすい環境づくりをすすめます。

2 地域での参加機会の充実

(1) 顔がみえる交流の場の充実を図る

■現状と課題

◆ 顔がみえる交流の場の充実が必要

分野別課題調査では、「高齢者のなかには、地域とのかかわりが少なく、孤立している人も」、「地域の交流が乏しい高齢者夫婦、新興住宅地では特に」、「高齢者が地域でのかかわりを深め、交流の機会を増やしていくことが大切」、「地域で子ども同士が一緒になって楽しむ機会が減っている」、「子育て家庭が地域において交流できる機会を」、「障害のある人たちが気軽に過ごせるところがあるといいのだけど」など、顔がみえる交流の場の充実を求める声が多くありました。

取り組みの方針

- ◇ 地域において、孤立しがちな人たちの社会参加を促すため、身近なところで気軽に参加でき、ふれあいを深めることができる場や機会の充実を図ります。

具体的な取り組み

自分や家族が 取り組むこと 【自助】	1. 可能な範囲で、積極的に外出するよう心がけます。 2. 自分や家族が興味関心のある交流の機会について、情報の収集に努め、積極的に参加するよう心がけます。 3. 地域で開催されるサロンなどの場へ積極的に参加します。
地域のみんが 取り組むこと 【共助】	4. 地域で取り組むサロンなどへの参加の呼びかけと活動内容の充実を図ります。 5. 高齢者と子育て家族など、世代をこえて、それぞれの特徴を活かし、交流を深めることができるような場の充実を図ります。 6. 福祉分野別での交流の場として、自治公民館などを活用するなど、 ✧ 高齢者の持つ経験や能力、特技や趣味を活かせるような交流の場を設け、充実を図ります ✧ 子育て中の親や子どもたちが交流できる子育てサークルなどを設け、充実を図ります ✧ 放課後や長期休暇中、子ども同士でともに遊んだり、学んだりできる交流の場を設けます

	◇ 福祉サービス事業所などと協力しながら、障害のある人同士がともに語り合い、交流を深めることができる場を設け、充実を図ります ■ 家族介護者や子育て家族の保護者などが、お互いに悩みを語り合い、休息が取れるような場の充実を図ります。(2 節 1-5.の再掲)
事業所が 取り組むこと 【共助】	7. シルバー人材センターでは、高齢者の生きがいづくりの場として、活動内容の周知を図るなど、会員の増加に努めます。
社会福祉協議会が 取り組むこと 【共助】	8. 地域で取り組む交流の場づくりの活動を支援します。
行政が 取り組むこと 【公助】	■ 家族介護者や子育て家族の保護者などが、お互いに悩みを語り合い、休息が取れるような場の充実を図ります。(2 節 1-5.の再掲) 9. 交流の場や機会となるよう校区公民館や隣保館・集会所などでのサークル活動や学習会などの充実を図ります。

(2) ボランティア活動の活性化を図る

■現状と課題

◆ ボランティア活動をすすめていくための工夫が必要

市民ワークショップでは、「ボランティア活動の活発化には安心して取り組める仕組みも大切」など、分野別課題調査では、「無理なくボランティア活動に参加できる工夫」など、ボランティア活動をすすめていくための指摘が多くありました。

◆ ボランティア活動に関する情報提供の充実が必要

分野別課題調査での「ボランティア活動をやりたい人はたくさんいるはず」、「よく知らないため、ボランティア活動は大変なことと思っている様子」、「ボランティア活動のことを知らせる取り組みが必要」など、ボランティア活動に関する情報提供の充実を求める声が多くありました。市民意識調査でも、活動をすすめる上での改善点について、「活動に関する情報収集や情報発信をする場、機会が少ない」が35.0%で上位となっています。

◆ ボランティア活動に対する意識が高いとはいえない

ボランティア活動への参加の有無について、市民意識調査では、「まったく参加したことはないが、今後参加したい」と「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」がともに30.5%で上位となっており、ボランティア活動の経験がない人たちが大半を占めています。また、「今後とも参加したいとは思わない」と回答した人の割合が高く、ボランティア活動に対する意識が高いとはいえない状況もうかがえます。

◆ 気軽に参加できる仕組みや支援が大切

今後のボランティア活動や地域活動への参加意向について、市民意識調査では、「参加したくない」の31.3%がもっとも高い回答割合となっていますが、その理由をみると「時間的に余裕がないから」が45.1%でもっとも高い回答割合となっています。「参加するきっかけがないから」も19.0%であることも踏まえると、気軽に参加できる仕組みや支援のための取り組みをすすめていくことも重要であるように思われます。「福祉活動に関心がないから」が7.5%で低い回答割合であることから、「参加したくない」が上位であったことは、必ずしも関心度の低さを意味するものではないと思われます。

◆ ボランティア活動に参加して人とのかかわりを深めることができた

市民意識調査では、ボランティア活動に参加してよかった点について、「新しい経験ができた」の47.8%とともに、「多くの人と知り合いになれた」の45.5%が、上位となっています。ボランティア活動をとおして、人とのかかわりを深めることができたと考える人が半数近くを占めています。

取り組みの方針

- ◇ 市民参画で取り組む福祉活動の担い手を広く求めます。
- ◇ 社会参加の機会の充実を図るために、市民がボランティア活動に参加しやすい環境づくりを推進します。

具体的な取り組み

自分や家族が 取り組むこと 【自助】	10. 社会福祉協議会などで開催されているボランティア養成講座に積極的に参加します。 11. 趣味や特技、経験を活かして、ボランティア活動に参加します。 12. ボランティアやその活動を支援する、寄付行為を含めたボランティアサポーターとして協力します。
地域のみんが 取り組むこと 【共助】	13. 地域の行事などをとおして、ボランティアに参加しやすいきっかけづくりをすすめます。 14. ボランティア活動の拠点として、いつでも活用できるよう、自治公民館などを広く開放します。 15. ボランティア団体では、活動の充実を図っていくため、活動内容の周知に努めるとともに、新規のメンバーを増やすための取り組みをすすめます。 16. 地域活動の充実のため、ボランティア団体の活用を積極的にすすめます。
社会福祉協議会が 取り組むこと 【共助】	17. ボランティア情報センターでは、 ✧ 市内で活動するボランティア団体について周知します ✧ ボランティアの楽しさを伝える取り組みをすすめます ✧ ボランティア活動の実践への支援を行います ✧ ボランティア団体との交流を図り、情報交換を行います ✧ ボランティア養成講座を開催し、その周知と参加を呼びかけます ✧ ボランティア情報の収集と発信とともに、ボランティアをしたい人と求める人をつなぐコーディネート機能について、両者のニーズを的確に把握し、信頼関係を深めながら、さらなる充実を図ります 18. ボランティア活動に必要な資金を調達する取り組みをすすめます。
行政が 取り組むこと 【公助】	19. ボランティア活動に参加している人の生の声を伝えるなど、ボランティア活動に関するさまざまな広報活動の充実を図ります。 20. ボランティア活動の拠点として、いつでも活用できるよう、校区公民館などを広く開放します。

	21. 市内で活躍するボランティア団体やその活動内容などに関する情報を集約する担当部署のあり方について検討します。 22. NPO 法人を含むボランティア団体との協働事業についての検討をすすめます。 23. ボランティア情報センターに対する支援の充実を図ります。 24. 有償ボランティア制度など、新たなボランティア形態を検討します。
--	---

(3) 地域活動や行事を支援し参加を促す

■現状と課題

◆ 地域とのかかわりや交流を深めていくことに前向きな市民が多い

市民意識調査では、現在住んでいるところに「住み続けたい」と考えている人が69.4%で、大変高い割合を占め、逆に「住み続けたくない」はわずか5.9%となっています。このことから、市民の多くが、小都市に愛着を感じているのではないかと思います。そして、地域とのかかわりや交流を深めていくことに對し、前向きな市民が多く存在するのではないかと思います。

◆ 地域活動にかかわる機会が持てるような工夫が必要

近所づきあいの程度について、市民意識調査では、「会えばあいさつをするが、それ以上の話はしない」が28.6%、「つきあいがほとんどない」が3.5%となっていますが、その理由として、「かかわる機会や時間がないから」が37.5%で、もっとも高くなっています。地域における助け合い、支え合いの取り組みをすすめていくための第一歩として、地域活動のなかで、「かかわる機会」が持てるような工夫が必要であるように思われます。

◆ 地域活動や行事の活性化に向けた課題が山積

市民ワークショップでは、「地域活動や行事に参加する人が減り、メンバーも固定化してしまっ」て、「地域活動や行事への参加の呼びかけは難しい面も」、「地域活動や行事のために積極的に動ける人が少ない」、「新しい住民は地域活動や行事に参加する機会が少ない」、「地域活動のなかで、女性にもっと活躍の場を」、「子どもの地域活動は親次第」、「地域活動や行事において、障害のある人たちに対する配慮が十分ではないかも」、など、分野別課題調査でも、「高齢者がいる世帯では、同居家族がいても、家庭のなかではひとりぼっち。地域の人たちのかかわりが求められている様子」、「多くの子どもたちが地域での活動や行事、交流の場に参加できることも大切」、「障害のある人たちとかかわりが持てる機会があるといいのだが」など、地域活動や行事の活性化に向けた多くの課題が指摘されました。

◆ 誰もが取り組んでいけるような活動の工夫が大切

地域活動への参加の有無については、市民意識調査によると、「活動したことがない」が40.3%で、もっとも高い回答割合となっていますが、その理由をみると、「勤務などの都合で機会がない」を挙げた人が34.2%、「時間がない」が23.4%となっています。地域へのかかわり、地域での交流を深めるためには、現役世代の仕事で忙しい人たちであって排除されることなく、取り込んでいけるような活動の工夫が求められているようです。

◆ 地域活動への積極的な参加への意識づけが大切

地域において安心して暮らしていくため、市民のひとりとしてできることについて、市民意識調査では、「できるだけ地域での出来事に関心を持つ」が49.9%でもっとも高い回

答割合となっていますが、「地域活動に積極的に参加する」は 16.1%にとどまっています。「共助」による取り組みをすすめていくためには、そのための意識の向上が重要な課題となっていると思われます。

取り組みの方針

- ◇ 社会参加の機会づくりとして、自治会や地域の各種団体などが連携を深めながら、地域活動の活性化を図ります。
- ◇ 多様なライフスタイルを尊重しながら、年齢や障害のあるなしに関わらず、多くの人たちが気軽に参加することができる地域活動の充実を図ります。

具体的な取り組み

自分や家族が 取り組むこと 【自助】	25. 自治会や各種団体の活動に関心を持ち、参加するよう心がけます。 ■ 地域の行事や地域活動への関心を深め、周囲にも声をかけながら、積極的に参加するよう心がけます。(2 節 1-45 の再掲) 26. 子どもとともに地域の行事に参加するなど、親子で地域にふれあう機会を大切にします。
地域 みんなが 取り組むこと 【共助】	27. 自治会や各種団体間で交流や連携を深め、それぞれの活動の活性化を図ります。 28. 地域の活動や行事への参加経験がない人や少ない人が、参加しやすい雰囲気となるよう工夫し、地域活動参加へのきっかけづくりをすすめます。 29. 転入してきた世帯に対して地域の活動や行事などを説明し、地域への関心を高めます。 30. 地域活動の拠点となる自治公民館について、バリアフリー化に向けた改修などの検討をすすめます。
行政が 取り組むこと 【公助】	31. 地域活動のリーダー役となる人たちに向けた学習会や研修などの充実を図ります。 32. 地域や自治会で行われている活動や行事について広く紹介します。 33. 地域活動の拠点となる校区公民館などのバリアフリー化を計画的にすすめていきます。